

MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINE

むさしのパークライフマガジン

MPM

2017
SPRING
SUMMER
VOL.7

YOUR PARK LIFE : Park Life × 生物多様性

FOCUS : 水と緑のつながりマップ

ESSAY : ヴィンテージのピクニックカップ

公園からはじまる、気持ちのいい一日。

季節を感じ、ほっとできる場所。

なにもしない、贅沢な時間。

……きつと、公園で過ごす時間は暮らしを豊かにする。

私たちは、そんなことを思っ日々公園で働いています。

公園を使いこなすと、どんなライフスタイルが待っているのか。

この「MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINE」では、

ちょっと素敵な自然のこと、

いままで気づかなかった生きものの不思議、

暮らしを豊かにする公園の使いこなし方、などなど。

公園で働く私たちだからこそお届けできる、

“パークライフ (Park Life)”の魅力をお伝えしていきます。



都立野川公園「春の遠足風景」

タヌキもいるぞ！花もさいている！

野鳥さえずり、カエルが歌う！

公園には生きものがいっぱい！

そんな生きものたちのつながりをご紹介します！

Park Life × 生物多様性

タヌキは昔から人里近くにすむ動物で、山奥ではほとんどみかけません。
まちなかに自然が残る都立公園には、たくさんすんでいるようです。武蔵野の都立公園には、他にもアナグマ、ハクビシン、アズマモグラやアカネズミなどもすんでいます。

「ホンドタヌキ」 都立浅間山公園



生物多様性って？

いろいろな生きものがいて、みんな個性的で、でもつながっている。地球で生きていくうえで、とても大切なこと、それが生物多様性。

いま地球上では、生活の場が失われ、姿を消してしまう生きものも少なくありません。しかしここ、武蔵野の都立公園には昔ながらの自然が残され、たくさんの生きものがすんでいます。東京の真ん中にも！こんな身近なところにも！私たちが大切にしたい生物多様性があるのです。

「エナガの巣立ち雛」都立武蔵野公園



いろいろな生きものがいること

—— 種の多様性

武蔵野の都立公園では、パークレンジャーが自然のようすを調べています。レンジャーが見つけた生きもので、絶滅危惧種と言われるものだけでも150種。武蔵野らしい生きものとして、大切にしようと決めたものが108種います。他にも普通に見られるものを含めたら、いったいどれだけの生きものがいることか！

公園は生きものたちのためにも大切な場所なのです。オオタカは武蔵野のどの都立公園にもやってきます。最も強く、そして最も美しい野鳥のひとつでしょう。オオタカだけではありません。ひとつひとつの命には、生命が生まれてから40億年の時間を経てつくり上げられた個性あふれる能力が宿っています。まだまだ私たちの知らない力もたくさん眠っているのです。

「オオタカ」都立野川公園



「ナミテントウ」 都立武蔵国分寺公園

いろいろな個性があること —— 遺伝子の多様性

これも!? あれも!? 同じナミテントウ!?
模様も、色も違うのに、このテントウムシたちはみんな同じ種類。みんなナミテントウ。全部の模様を見つけて並べたくなるような、おもしろい、不思議な虫ですね。
人間でも足が速い人も、頭のいい人もいます。歌のうまい人、料理のうまい人もいます。寒さに強い人、暑さに強い人もいます。恐ろしい病気に強い人もいたから、その病気がはやっても全滅しなかった。いろいろな個性があるから、人間は世界中に住むことができ、それぞれに豊かな暮らしがあるのです。生きものにいろいろな個性があることは、生き残るための強さがあるということ。豊かさがあるということ。



「ウマノアシガタ」狭山・境緑道（馬の背）：生物多様性スポット



「ヒラタクワガタ」玉川上水緑道



「ニホンアマガエル」都立武蔵野公園

水辺、草原、雑木林、いろいろなところがあること —— 環境の多様性

水辺には魚やカエルがいて、それを食べるサギやタヌキもやってくる。雑木林にはクワガタやカブトムシ！野鳥たちは虫や木の実を食べ、そこで子育てもする。草原にはバッタ、チョウ…いろいろな場所には、それぞれに生きものたちのつながりがあります。その生きものを大切にしようとしたら、つながっている生きものたちや、その場の環境も大切にしないとはいけません。

武蔵野の都立公園では、そんな武蔵野らしい生きものたちのつながりがあるところを「生物多様性スポット」と名付けて、大切に守っています。

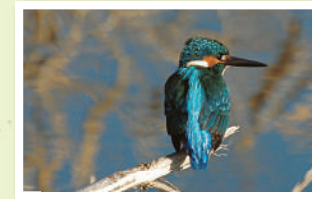
オタマジャクシは水の中で、カエルは水辺の草地や森にすみますね！もちろん、そんなところも公園にはたくさんありますから、両方の環境を一緒に守るのです。



フクロウ(狭山丘陵)



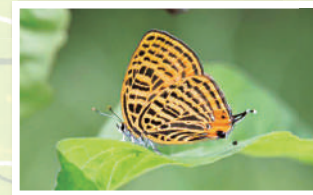
アカネズミ(武蔵国分寺公園)



カワセミ(武蔵野公園)



オンパバッタ(狭山・境緑道)



ウラナミアカシジミ(浅間山公園)



ニホンカナヘビ(東伏見公園)



サワガニ(野川公園)

武蔵野エリアで出会える生きもの

水と緑のつながりマップ

大都市東京の真ん中、武蔵野エリアに点々とある緑は、公園や霊園。大学や天文台の森、社寺林なども大事な生きものたちのすみかです。オオタカやフクロウは大きな木のあるところで子育てをし、近くの草原や林で狩りをしますから、いくつもの場所を使っています。緑のラインは玉川上水緑道と狭山・境緑道。青いラインは河川。そこは生きものたちの通り道にもなっています。水と緑のつながりは、生きものたちの命のつながり！

参加者募集！
都立野川公園 自然観察センターにて開催！

NEWS

むさしのカレッジ「むさしのの自然と生物多様性」

むさしの地域ならではの自然について、レクチャーとガイドウォーク両面からじっくり学んでみませんか。

- ①レクチャー 講師：東京農工大学植生管理学研究室 吉川正人准教授
- ②ガイドウォーク 講師：NPObirth 自然環境保全部 金本敦志レンジャー

【開催日時】2017年5月13日(土) 10:00～12:30

【定員】先着30名 【参加費】500円(保険料、資料代含む)

【場所】都立野川公園自然観察センター(東京都調布市野水2-2)

【申込先】都立野川公園 TEL 0422-31-6457(4/15より受付開始)

【アクセス】JR中央線・武蔵小金井駅南口から京王線調布駅北口行き京王バスにて「野川公園一之橋」または「二枚橋」バス停下車徒歩5分



東京農工大学
植生管理学研究室
吉川正人准教授

NPObirth
自然環境保全部
金本敦志レンジャー

ヴィンテージのピクニックカップ

Episode.7

萌え上がる雑木林の新緑を見ると、高校時代の恋を思い出す。そのとき好きだった子のことは、おぼろげになっていても、一緒に歩いた道の、木々の色を感じているのだ。新緑が胸に染み入るように感じるとき、僕はこれが恋なのだと知った。自然の姿が人の心を映し出すことがある。浅間山に降り注ぐ緑の光に包まれて、ふいにその感じを思い出した。

前を歩いていて彼女が、後ろを振り返っていった。
「高校生のときに、あなたとここを歩きたかったわ。」
彼女と僕が出会ったのは、社会人になって10年もしてからだ。もっと若いころから一緒だったらと思うことがある。
「でも君は今、小学生のように山道を歩いていたよ。それで僕は満足。たぶん今の君の方がずっといいよ。」
くるっとまた前を向き直り、小学生になったり、高校生になったり、おぼろげに戻ったりしながら、彼女はどんどん歩いてゆく。柔らかなプロペラのようなホオノキの葉、足元を埋めるギムシロの黄色い花、風の匂い、水色の空、緩やかな起伏が心地よく、この道をずっと歩いていたと思う。

浅間山公園は住宅街の中に忽然と現れる緑の塊だ。小金井街道に面した前山と、

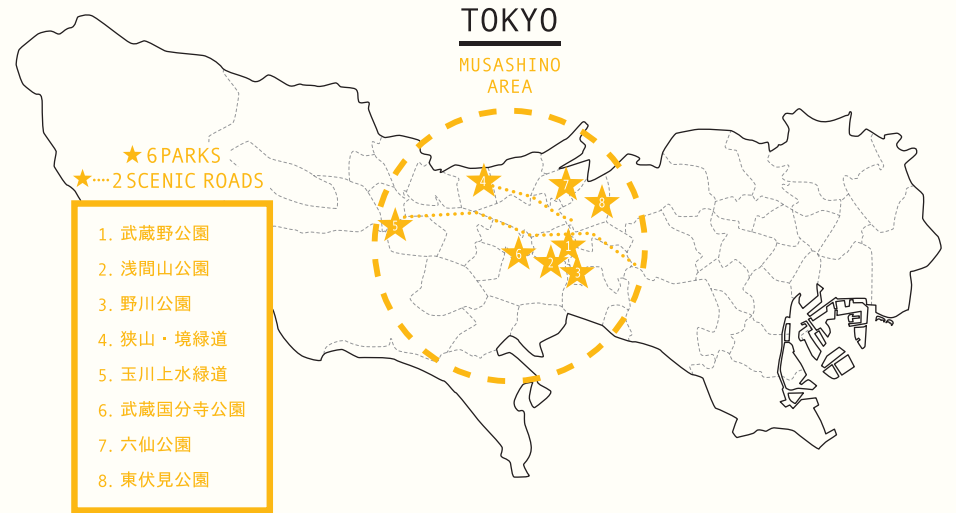
浅間神社のある堂山、その間に中山。三つの小山でできている。小金井街道から堂山の頂上までは30mほどの高低差だろうか。ゆっくり歩き回っても1時間半だろう。初めて来たとき僕は、ここを古代の古墳の跡だと思ったが、かつての多摩川が削り残した、自然の段丘なのだという。「公園というより山よね。雑木林の山。私はこういう方が好きかもしれない。」
森陰に大株のキンランが揺れ、ムサシノキスゲが咲き始めていた。音楽があふれ出るような武蔵野の春の風景である。
「これを見せたかったのね。あなた黄色い花が好きよね。」
昔は黄色が嫌いだった。警戒色とか、注意信号とか、派手な飲食店の看板とか。そういう色だと思っていた。でも歳をとって自然を見つめるようになり、そこに柔らかな黄色があることを知った。ほんの少しの白と、もっと少しの橙を混ぜたような、ムサシノキスゲの柔らかな黄に、心が溶けていくようだ。自然の色が僕の心を映すのなら、僕の何を映しているのか？
「幸せの色ね」
木漏れ日の中で彼女がいった。

蜂須賀公之 はちすか まさゆき
武蔵野生まれ、武蔵野育ち。東京の自然をこよなく愛するレンジャー、インタビューライター。

西武・武蔵野パートナーズ

武蔵野エリアにある都立公園の指定管理者「西武・武蔵野パートナーズ」は、2011年より武蔵野エリアの公園と緑道を管理してきました。2016年からは西武造園(株)・NPO法人NPO birth・ミズスポーツサービス(株)に、一般社団法人防災教育普及協会を加えた共同事業体として、新たなスタートを切りました。

「人・自然・まちが元気になる公園に」をコンセプトに、武蔵野の自然と文化を大切にしながら、さらに公園の可能性を広げるため、みなさんとともに、元気になる公園づくりをすすめます。



発行：西武・武蔵野パートナーズ TEL:0422-31-6457(都立野川公園) <http://musashinoparks.com>

発行日：2017年4月8日

デザイン：川上明子

編集・製作：西武・武蔵野パートナーズ/リュエル・スタジオLLP

印刷・製本：シナノ書籍印刷株式会社

表紙写真/都立浅間山公園「ムサシノキスゲ(ユリ科)」* (写真提供:浅間山自然保護会会長 山田義夫氏)

*かつては武蔵野地域で広く見られたが、いまでは浅間山公園だけに自生する、貴重な植物。

ニッコウキスゲに近い仲間で、5月上旬に開花。橙黄色の花が一面に咲き渡る様子は圧巻。

第24回キスゲフェスティバル 開催日:平成29年4月29-30日、5月6-7日 会場:浅間山公園あずまや

MUSASHINO
PARK-LIFE
MAGAZINE

SEIBU・MUSASHINO PARTNERS

<http://musashinoparks.com>